

【書評・紹介】

長久保赤水と山本北山 ～漢詩論をめぐって～

長久保赤水関係資料群 693 点国の重要文化財 指定記念誌

川口 和彦 編著

編集・発行 長久保赤水顕彰会

B5判 182 ページ

2021年5月10日発行 本体 1,100円(税込)



本書は、タイトルでもある川口和彦氏による「長久保赤水と山本北山」論、国の重要文化財指定を受けた寄稿文、長久保赤水氏に関わる資料紹介の主に3つから構成される。本誌は地図学会誌であるので、これらの中でも「赤水図」に関係のある寄稿文について紹介する。

本書における寄稿文は以下のとおり(敬称略)。

- ①国の重要文化財指定の祝辞にかえて 和泉元彌
- ②令和の世で読む「赤水図」 卜部勝彦
- ③長久保赤水と伊能忠敬の日本地図 菱山剛秀
- ④学校教育現場で「赤水図」が果たす役割と地図学のアウトリーチとしての価値について 太田弘
- ⑤長久保赤水が刊行した諸地図について ―赤水図を中心に― 海田俊一
- ⑥日本地図研究の文理融合・内外融合・研究人材融合への検討 辻本元博
- ⑦『赤水図』と『東奥紀行』 石 孝弘

⑧長久保赤水先生と吉田松陰先生 西尾敏容

⑨東海道蒲原宿の渡邊家と「赤水図」 渡邊和子

どの寄稿文から読むかはもちろん読者の自由だが、特に「赤水図」に関わる地図学的な寄稿という観点からその幾つかを紹介したい。

まず、長久保赤水氏の地図に関する業績を考える上で、以前から著名であった伊能忠敬氏の業績との比較はやはり避けては通れないだろう。「赤水図」を知らない方は本誌の読者にはほぼおられないだろうが、その技術的側面についてあまり知らないという方については③辺りから読まれることをお勧めする。「伊能図」が実測図で「赤水図」が編集図であることは良く知られているが、詳しい説明が行われている。

学習教材としての意義という観点では②や④に詳しく書かれている。高萩市歴史民俗資料館での展示の様子などがいずれも扱われており、読者が利活用のイメージを持ちやすいよう配慮がされていると考える。

⑤や⑥は、学会誌や定期大会などで精力的に成果を発表されている著者の方々が、これまでの調査や研究の成果についてまとめられている。「赤水図」に関する視野を広げる資料になるであろう。

本書におけるその他の多くの部分は、「赤水図」などの諸地図に関わる業績のみにとどまらない、学者としての長久保赤水氏の功績について、大量の資料とともに論じられている。「赤水図」に触れ、同氏の人となりに関心を持たれた読者にとっては、興味深く読み進めることができるだろう。その業績は類書(長久保, 2021)などからも窺える。入手に関する情報とあわせて以下に紹介しておく。

振り返って本書からは、「長久保赤水=赤水図をつくった人」という単純な図式ではなく、もっと広い意味での「学者・長久保赤水像」を読者と共有したい、そういう強い意思を感じたところである。

(岡谷 隆基)

引用文献:

長久保片雲(源藏)(2021):長久保赤水著『古史通大意』, 源藏出版, 60p.

本書, 引用文献に関する問合せ先:

佐川春久様(haruhisasagawa@yahoo.co.jp)

(受理 2021年6月30日)